

●平成27年度市政懇談会市長あいさつ

平成27年度市政懇談会を開催致しましたところ、大勢の方にご出席をいただきましてありがとうございます。また、それぞれの地域の活動の中で市政に対してご理解とご協力をいただいていることに対し、改めて感謝申し上げます。一年に1回この時期に市政懇談会を実施しておりますが、市の新年度予算や施策などについてご紹介させていただきながら、問題提起やご意見をいただきたいという趣旨で開催させていただいております。

私の方から何点か、市が抱えている課題や問題点について、私なりに考えていることをお話しさせていただいてご挨拶に代えさせていただきます。

ひたちなか市の平成26年度までの人口は、ほぼ横ばいです。震災を契機に若干減りましたが、かねてからの予想では平成27年度がピークで、来年度以降は出生数などの関係から人口が減る予想を立てております。人口が減ることを喜んでいるわけではなく、多くの方に住んでいただきたいという姿勢でまちづくりをしております。その中で、一世帯当たりの構成員数が減っているものの、世帯数は今のところ増えている状況であり、皆さんの周りにも高齢者の一人住まいや二人住まいの方が増えていますし、空き家も確実に増えつつあると思います。そして一方では子供が減ってきており、新小学一年生は1,400人台で、かつては2,000人いた時代もあるわけですが、少子化や高齢化は、全国や県の平均から見ると、ひたちなか市は少しペースが遅い感じはしていますが、間違いなくそのような時代になっています。高齢者の方々も、老後の人生設計からみても不安があると思いますし、子育て世代も周りにアドバイスをしてくれるお年よりも少ない状況でもありますので、子育て不安もあるような気がしてならないわけです。

三世代で同居、もしくは近居を奨励する要綱を6月1日に作りました。NHKでも取り上げてくれましたので、観てくれた人もいるかと思いますが、今のところ40件ほど問合せがあります。余計なおせっかいに思われるかもしれませんが、必ずしもそういうことが実現出来る方ばかりではありませんし、いろんなケースがあると思います。自分の経験も含めてですが、近くに親やお年寄りが居れば頼ることや色々なアドバイスを受けることも出来るでしょうし、また、金融機関とも連携しながら住宅の新築や改築、リフォームについて一定の支援をさせていただきます。県内ではそれをはっきりと目的に掲げて予算化したのは、ひたちなか市が最初だと思います。

ただ、県内では子供が少なくなっている過疎的なところが県北中心に多いですから、子育て上手とかいろいろ宣伝しているところもたくさんありますので、必ずしも本市だけが抜きん出て問題意識を持っているわけではありませんが、ひたちなか市は日立製作所さんに代表されるように、ものづくりや働く場所は引続きしっかりと確保されているまちであると思いますし、今後ともそうしなければいけないと思っています。ですから若い人たちが働いて暮らせる、職住近接のまち、というのを私は目指しております。そ

ういう中での支えあいが非常に大切であり、そういう問題意識であります。

それから一中地区に関わり合いのかなり深いこととして、勝田駅周辺、特に、中心市街地をどうやって元気を出すかという問題ですが、ご存知のように、はっきり申し上げてお店のシャッターが相当降りているわけです。どこの地方都市もほぼ共通だと思います。商店街が元気で頑張っているというのは、おそらく人が歩けない様な、車が通らない様な東京近郊の駅の近くの商店街というのは元気だと思いますが、地方の、ローカルの商店街はどこも大変です。そして目を転じますと、ひたちなか地区の国営ひたち海浜公園の周辺は大型店が相次いで出店をしましたが、その影響も大きいです。ただ残念ながらヤマダ電機が撤退ということでもありますから、いずれそうなるのではないかと見ておりましたが、大型店同士も結構競争があると思いますし、思った程お客さんが思惑通りには来ていないのではないかと思います。

ご存知のように、国営ひたち海浜公園は連休中に 52 万人お客さんが来まして、“死ぬまでに一度は見たいネモフィラを” というような宣伝が相当効いたと私は思いますが、ビックリしました。交通渋滞が激しかったわけでもありますし、湊線の話になりますと、湊線と阿字ヶ浦と国営ひたち海浜公園を結ぶシャトルバスも無料で運行しましたが、ものすごくたくさんのお客さんが乗りました。ただ、そういった多くの方が来ても街中にくるかという問題も含めて、非常に問題意識を実は持たざるを得ないわけでもあります。

まちづくり株式会社ことができました。商工会議所の主要なメンバーが中心となって、なんとかあの商店街を再び元気にしたいと。ただ、昔ながらの商売をしてあの商店街がもう一度盛るかという、私は無理だと思います。昔の通りにやるというのは時代に合わないわけでもありますから、今の時代に合ったやり方でいろいろ考えていかなければならないと思います。拝見していますと、結構人生経験が多いわけでもありますけれども、リタイヤした方も多いたと思います。昼間行き場所がないじゃないかと言われることも多いようです。図書館には行くけど、一日中図書館に居てもしょうがないじゃないかとかです。ですから中・高年齢の方の、特に男性を中心に、中心街に居場所をつくれという話しも聞きます。家に居たら邪魔にされる、男性を中心にそういうことを言われているのだと思いますが、それと、子育てを支援するために手軽に立ち寄れる、そういう機能や施設があってもいいのではないかと、そういう組み合わせを考えています。それから、図書館や生涯学習センター（前の中央公民館）、青少年センター、建物が古くなっていますし機能的にも見直さなければいけない時期にありますので、もう一度公共施設やその機能の再編も含めて、現在、検討中であります。

UR都市機構といいまして、昔の住宅都市整備公団であります。駅前東口を再開発したときに、市とタイアップして社員を派遣していただいて中心になってやっていただいたわけですが、そのノウハウも少しお借りしながら、中心市街地の公共施設の再配置、活用について協定を結んで進めようとしております。一つ注目しているのは、日立製作所さんで持っておられるサイエンスラボラトリーという立派な建物で、周

りに木もあります。せっかく日製病院が改築をして周辺の公園も整備したりしているわけでありすけれども、やはり健康づくりや、皆さん方の居場所づくりという点でも中心市街地、非常に重要だと思っていますので、力を入れてまいりたいと思っております。

災害からの復旧復興については、ほぼ復旧事業は終わりです。ただ、残っているのは港関係、海の関係で津波避難道路となる基本的な道路を、まだこれからやらなければいけない所が一つあります。それと、防災関係ということになりますと、ついこの間も学校の耐震化の問題が出ていますが、ひたちなか市ははっきり言いまして県内 44 市町村中、耐震化率が一番低いです。これは、昭和 56 年以前の古い校舎が多く、改築を計画的にしなければいけないという議論をしていた矢先に、中国の四川省の地震が起きて早急に耐震補強しなければいけないということで切り替えようとしていたら、実際にここが震災に遭ったわけでありす。実は耐震度が低いと言われていても大丈夫だったところとですね、大丈夫と思っていたところが結構ダメージが大きかったところと、実際それまでの調査と少しギャップもあったわけでありまして、取り急いで耐震化をやるというよりも、やはり老朽化した所は改築をした方がよいのではないかという事で、見直したところが何箇所かあります。湊中なんかも改築致しましたし、湊三小も改築です。そういったことをやっていますので、文部科学省からは平成 27 年度までには 100 パーセントにしないと許さないみたいなことを言って、毎年、大臣から市長宛に、けしからんと文書をいただくのですが、これは本市の事情でやっています。平成 27 年度中に着工すれば促進補助率が適用されるようでありすから、少し前のめりになって設計とか繰り上げてやっておりますけれども、計画的に平成 29 年度までに終わらせるつもりであります。

冒頭に申し上げましたように、ひたちなか市も間違いなく高齢社会、そして子供が少なくなっていますから、皆さま方の自治会や、民生委員の方もこの中にいらっしゃるかと思っておりますけれども、また、小地域のネットワークということで色んな見守りをやっていただいておりますが、非常にこれが大切になっているのは間違いないと思っております。ただ一方では、自治会に入っておられた方が抜けるとか、自治会の加入率が中々上がらない、もしくは低下するというむしろ逆と言いますか、こちらで期待させていただくことと少し逆の状況も残念ながら進んでいるという事でありす。地域に何を期待するか、そして役所に対して何を求め期待するかということについて真剣に期待していただくことが、ある意味では非常に大切だというふうに思うわけでありまして、災害の時も私も感じましたが、自分のことは自分で守る、また、守れる人が相当数いないと本当に困った人に手を差しのべるのは難しいと思っております。ですから、自助でやることの基本は非常に守らなければいけないと思っておりますけれども、それをそれぞれ取り組んでいただいた上で、本当に困っている方々や社会的に弱い立場の方々に手を何とかして差しのべる、そしてまた、環境づくりをやるということが、このひたちなか市にとっても大きなテーマだと思っております。今どこの市町村を見ましても、協働という言葉を、ほぼどこも使うよ

うになったと思います。市長に就任させていただいて14年目に実はなりますけれども、協働を標ぼうしていたのは僅かだったと思いますが、今の地方の仕事のやり方の流れから言うと、“協働”無しにはまちは支えられないと思います。

今、景気について本当に、この地方良くなっているかという実感はあまりないですよ。日立製作所さんは給料が上がっているはずですよ。ですから街中で使っていただいていますね、そのお金が出回ることが大切だと思いますが、中々地方でそういう実感というのが出てこない。アベノミクスも三本の矢の三本目は最近あまり聞かないですよ、どうしたのだろと思いますけれども、そこのところはやっぱりしっかりと産業を支えるといえますか、働く場所を確保するというのがこのひたちなか市、非常に重要かつ可能なまちでありますので、その点についてもしっかりとやるつもりです。

皆さん中々行く機会が無いかもしれませんが、常陸那珂港という港はですね平成26年に過去最高の貨物量を記録しているわけです。コンテナはまだまだ計画の道半ばでありますけれども、北関東自動車道が出来まして群馬や栃木の荷物を東京湾から出しているものを、ここから出したほうが遥かに合理的だ、ということが常識化してきているので、言っているということになってはいますけれども、富士重工スバルの完成自動車、北米向けに大好調の状況ですけれども、これを常陸那珂港から積み出す、そのためのヤード岸壁整備をするということで、随分国の予算が付いています。今、世界的に東京、横浜、神戸の港が随分、上海やシンガポール、釜山に地位を奪われており、非常にコンテナの取扱量も減っております。ですから国土交通省では拠点となる国際コンテナターミナルといえますか、そこに重点的に投資をしてサービスも向上させて船便をもう一度戻そうとしているのですが、中々企業が海外シフトしていることもあって国内の取扱量が少なくなっている中で重点化しています。その中で常陸那珂港は予算が付いている方であり、これはやはり大きな災害が起きた場合の役割分担をする港ですし、東京港がかなり混雑して、ある意味では安全とはいえない部分も出てきていますので、そういう意味でもこの常陸那珂港は重要だということです。シアトルとも定期便があります。物流という機能からしても、ここはみなさんが考えている以上に注目をされているところだと思います。

国営ひたち海浜公園も先ほど申し上げましたけれども、一時年間70万人まで下がり、それが去年は176万人です。あえて言いますが湊線も60万人台に下がりましたが今は90万人台ですから、なんとか延伸できないか真剣にやっています。阿字ヶ浦に停まっている理由はもう無いということでもありますから、そうすると循環することも可能ですから、5、6年前に言ったら市長はちょっと気がおかしくなったと言われたと思いますが、今は4人に1人位はいいじゃないかと言ってくれる人が出てきたような気がしています。これは勝手な思い込みかもしれませんが、そういうふうに感じています。いろんな可能性があるひたちなか市だと思っています。

今日は限られた時間の中で15分位喋らせていただきましたけれども、一中地区に限

ったことではなく、個々に限ったことでもいいのですが、市内全体のことや今後のまちづくりについて感じていること、普段いろんな機会があるとは思いますが、こういう提案をとることがあれば是非積極的にご発言をいただきたいと思います。

毎回私申し上げておりますけども、今日一日で市政懇談会は終わりで、後は知らんぷりをするつもりはありませんので、そういう意味では 365 日が市政懇談会のつもりで市役所を運営しております。そのようにご評価いただけるかどうか市民の皆さまにかかっているわけですが、謙虚にその辺の声は聞かせていただきたいと思います。ちょっと長い挨拶になりましたが、この 2 時間でありますけれども、皆さま方の貴重なご意見を賜りますよう心からお願いをさせていただいて、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。